Trends in the prevalence of atopic dermatitis in school children：longitudunal study in Osaka Prefecture, Japan, from 1985 to 1997.

出典　British Journal of Dermatology 2001 Dec; 145(6): 966-973
(http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/11899151)

著者　Yura A　他

調査地域　大阪府

調査時期　1985年、1987年、1989年、1991年、1993年、1995年、1997年

調査対象　7～12歳

依頼数	回収数	有効回答率
1985年：764106人	741823人	97.1%
1987年：677367人	657542人	97.1%
1989年：642170人	598893人	96.7%
1991年：568119人	539683人	95.0%
1993年：541726人	514656人	95.0%
1995年：520476人	496158人	95.3%
1997年：489725人	458284人	93.6%

診断方法　「これまで医師にADと診断されたことがあるか」の質問で有病率を算出

有症率　1985年：15.0%
1987年：19.1%
1989年：20.9%
1991年：22.0%
1993年：24.1%
1995年：22.9%
1997年：24.1%

調査概要　大阪府の小学生（7～12歳）を対象に質問票によるアトピー性皮膚炎の有病率の調査を行った。1985年から1997年まで2年毎に調査を行い、各調査は460000～740000人の児童が対象となった。有病率は1985年が15.0%で徐々に増加し、1993年には24.1%となり以後は横ばい推移している。